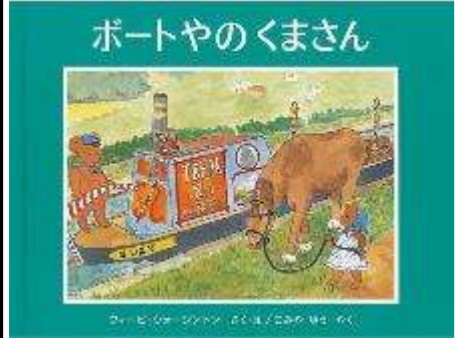


「せきたんやのくまさん」「パンやのくまさん」に続く新しいなかまです。今回のくまさんのお仕事は「ポトヤ」です。「ポトヤのくまさん」は、ポトヤに住んでいます。もつ、それだけで、なんだか楽しそうですが、運送業の仕事をしています。妹のスイーと一緒に。

川を使って、干し草や石炭を運びます。馬のデイズに縄を引っ張ってもらい、進みます。

お昼ご飯はポトヤの屋根の上で、ピクニックみたいですよ。さて、トンネルがさしかかると、どうやってポトヤをすすめるのかな？

図書室から Book Guide No.267 **ポトヤのくまさん** フィビー・ウォーントン/作・絵 小宮裕/訳 福音館 1100円(税込)



NPO Akaiyane 特定非営利活動法人 あかい屋根

NPOあかい屋根広報紙 発行: 特定非営利活動法人 あかい屋根 ひまわり編集部 044-976-0444

**ひまわり** 第 541号 2021/ 9/ 1

西野博之氏 講演会  
**地域が子どもの居場所になるために**  
 10月2日(土) 14:30~16:30  
 菅生分館



子どもの危険な行為を見た際に、「知らない子どもだと、どのように声をかけて良いのか分からない」「どうしてそんな事をするのか分からない」という声を聞きます。

講師のお話を聞いて、なぜそんな行為をしてしまうのか? 「行為の背景」を考え理解して、警察や学校に連絡をする前に、各人が「これだったらできる、これはやれそう」を一緒に考え、子どもにとって「居心地のいい安全な地域」を、皆さんで考えたいと思います。

**西野博之氏プロフィール**  
 NPO 法人「フリースペースたまりば」理事長  
 川崎市子ども夢パーク所長  
 「フリースペースえん」総合アドバイザー  
 精神保健福祉士

申込: なし、当日会場へ(14時から受付)  
 対象: 関心のある方  
 参加費: 無料

**【コロナ感染防止対策】**  
 ※お名前と連絡先を記入していただきます。  
 ※マスク着用をお願いします。  
 ※会場にて手指消毒と検温をします。  
 ※会場は換気、ソーシャルディスタンスを保ちます。

主催: 菅生中学校区地域教育会議  
 問合せ: 菅生中学校地域教育会議道親ネットワーク  
 山田 090-6101-6470



**緊急事態宣言のため9月のイベントは中止**

菅生・蔵敷こども文化センターとも、緊急事態宣言のため9月のイベントは自粛させていただきます。子どもたちにはうつらないとされてきたコロナウイルスですが、インド株のせいでしょうか、子どもたちもチラホラと罹り始めています。

敷のイベントを菅生工房・そうしきクラフトを除き中止といたします。菅生工房・そうしきクラフトはコロナ禍で密にならない方法として編み出した物で、注意して行ってまいります。

子どもたちに、万が一のことがあってはならないと、9月のイベントは中止の方向で、菅生・蔵敷こども文化センター 044-976-0444

こども文化センターは子どもたちの居場所としての機能もあり今まで通り開館いたしますが、密を回避し、マスク着用での利用をお願いします。

**菅生こども文化センター** 044-976-0444  
 9月の工作 すがお工房 しおりをつくろう  
 誰でも 無料 手ぶらでお越しください。  
 やりたい時にスタッフに声をかけてください。

**蔵敷こども文化センター** 044-977-2577  
 9月の工作 そうしきクラフト 紙コップ製鍋  
 誰でも 無料 手ぶらでお越しください。  
 やりたい時にスタッフに声をかけてください。

なが い  
 緊急事態宣言下のオリンピック  
 編集後記 99

◆オリンピックの金・銀・銅メダルのラッシュが続く、銀メダルの選手でさえ「期待に沿えなくて申し訳ない」と涙を浮かべる様子を何度も見てきた。「そんなことはない。世界の頂点のナンバー2なのだから」と声をかけてあげたかった。もっと言えばナンバー4の選手はメダルをもらえないという憂き目にあり、月とスッポンの差がある。オリンピックに出ることがすごいのに、それをメダルに置き換えていることが許せない。それと「平和の祭典」と言っておきながら、国別対抗戦のように、いくつ金・銀・銅メダルをとったかという数字の掲載もおかしいと思う。国と国が競うのではなく、あくまでも個人が努力し、運悪くその努力が発揮できなくても仕方がないとするのが、まさに「平和の祭典」の持つ意味であろう。日本人だからと言って日本を応援しなくても、その種目ごとに応援する国が変わってもいいのではないか。それをTVでは、ほぼ日本選手の活躍しか放映しなかった。

◆2020 東京オリンピックは、一年遅れの緊急事態宣言下で行われた。オリンピック前には「復興福島」を強調していた。聖火の出発地を福島とした以外に「復興福島」の声は聞かれなくなった。その後、「コロナ禍を克服した」という意味合いを強調しようとしたが、コロナが急速に拡大したので、聖火は公道を走れなくなり、トーチキスでお茶を濁すことになった。聖火だけではなく、無観客でのオリンピックは歓声が無く盛り上がり今一つの状態であった。「コロナを克服した」という思惑は外れ、「コロナ禍でもできた」という位置づけになった。これなら「インド株」がはやらない前に予定通り2020年にやった方がよかったのではないかと今思う。

◆パンデミックは予想がつかない。今思えば、そうした風に思えることが、その時その時の状況により

違ってくるのだ。今、20代、30代の若い世代の流行が問題になっている。なるべく早く、若い世代に予防接種を受けようと政府の偉い人たちが言うが、若い世代の人たちに予防接種を打てるようにしてほしい。打たないのではなく、打てないのだ。私もわくわくプラザで子どもたちの面倒を見ている職員もまだ打てていない。新横浜まで行けば打てるらしいが、ちょっと遠くて時間までに間に合わない。集団接種会場は現状満杯という状態だ。いつになるかわからない予防接種を、打つように言われてもままならない現実がある。

◆自宅療養も問題だ。いつ悪化してもおかしくない状況の人も、自宅療養しかなく病院は勿論、ホテルですら過ぎせないのだ。もしコロナに罹ったとしたら、どれだけ不安なことかと推察する。医者や看護師もいず、頼りになるのは電話だけで過ごすことの辛さを想像すると身の毛がよだつ。感染させないかという不安に、食べるものはどうするのかという不安。洗濯物は同じ機械で洗って大丈夫なのか・・・排泄物は・・・ゴミ出しはどういう風にすれば出せるのか・・・「なるべく接触しないで、共有部分は消毒して」を繰り返すだけで自宅療養のノウハウは分からないことが多い。

◆オリンピックが終わり、これからパラリンピックが始まる。「お・も・て・な・し」はどこに消えたのだろう。空港からバスで選手村に入り、選手村の外出は15分以内に制限され、お土産も買えずにももちろん観光とも縁遠い。日本文化を理解することもなく、ただただ競技をしに日本へやってくる選手たち。「復興福島」が消え、「おもてなし」も消えたオリンピック。仕方がないことかもしれないが、パラリンピックが第6波とならないようにと祈るばかりである。 統括館長: 針山直幸